

第1章 青少年の人口

第1節

青少年人口の現状と推移

少子・高齢化の状況が継続していることを反映して、青少年の人口の推移に関しても、青少年人口及び総人口に占める青少年人口の割合ともに減少傾向が続いている。

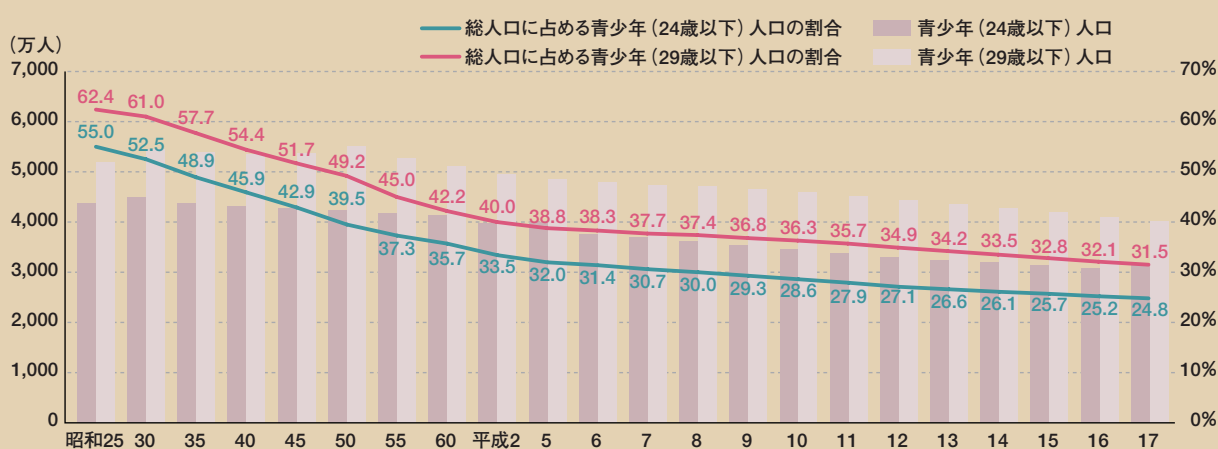
総務省の平成17年10月1日現在の推計人口(平成17年国勢調査要計表による人口を基準)によれば、我が国の総人口は1億2,775万7千人であり、このうち、青少年育成施策大綱が対象とする青少年(0～29歳)の人口は4,018万人で、総人口の31.5%を占めている(第1-1-1図)。

青少年人口を男女別にみると、男子は2,059万2

千人、女子は1,958万9千人で、男子が女子を100万3千人上回っており、女子100人に対して男子105.1人となっている。

第1-1-1図(各年ごとの数値については、参考資料1(1)を参照)の青少年人口の推移をみると、0～29歳では昭和50年以降ほぼ一貫して減少している。また、総人口に占める青少年人口(0～29歳)の割合についても、昭和48年までは過半数を占めていたが、昭和49年には50%を切り、その後も減少を続けている。平成17年には31.5%で、前年に比べ0.6ポイントの減少となっている。

第1-1-1図 青少年人口及び総人口に占める青少年人口の割合の推移



(注) 1 昭和45年以前の数値には沖縄県は含まれない。

2 「国勢調査」の数値は年齢不詳を按分している。

資料：総務省「国勢調査」、「推計人口」(各年10月1日現在)

第2節

青少年人口の動態

1.出生

我が国の出生数と合計特殊出生率(注)の年次推移をみると(第1-1-2図),昭和22年から昭和24年の第1次ベビーブーム期を経た後、数・率ともに急激に減少・低下した。その後、昭和41年の「ひのえうま」を除けば緩やかな増加傾向となる

が、昭和46年から昭和49年の第2次ベビーブーム期を境に減少・低下した。

その後、出生数は平成3年から増減を繰り返していたが、平成13年以降は減少しており、平成17年の出生数は106万2,604人と前年よりも4万8千人減少し、過去最低を記録した。依然として出生率

が低下し、生まれてくる子どもの数が減少する少子化が進行している。

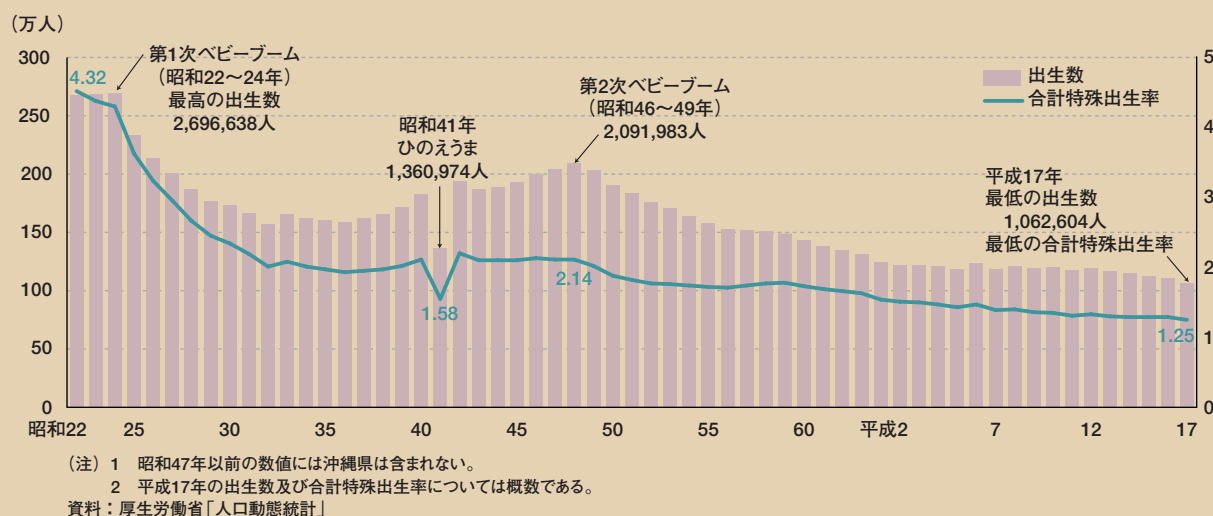
合計特殊出生率は昭和50年代後半を除き低下傾向が続き、平成17年は1.25となり過去最低の水

準となった。

(平成17年の出生数及び合計特殊出生率については概数である。)

☞(69ページ、第2部第1章第3節(1))

第1-1-2図 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



2. 婚姻

我が国における平均初婚年齢は、平成17年では、夫29.8歳、妻28.0歳となっている。その推移をみると第1-1-3図のとおりであり、夫妻とも、昭和30年代中ごろまでは高まる方向で推移し、婚姻ブーム期の昭和40年代中ごろに一時低下傾向を示したものの、昭和40年代後半から上昇傾向にあり、以前に比べ晩婚化が進んでいる。夫妻の平均初婚年齢の差をみると、その差は縮小傾向にある。初婚年齢が高くなると、出生時の母の平均年齢も高くなるという晩産化の傾向があらわれると指摘されており、晩婚化や晩産化が少子化の傾向の要因となる。

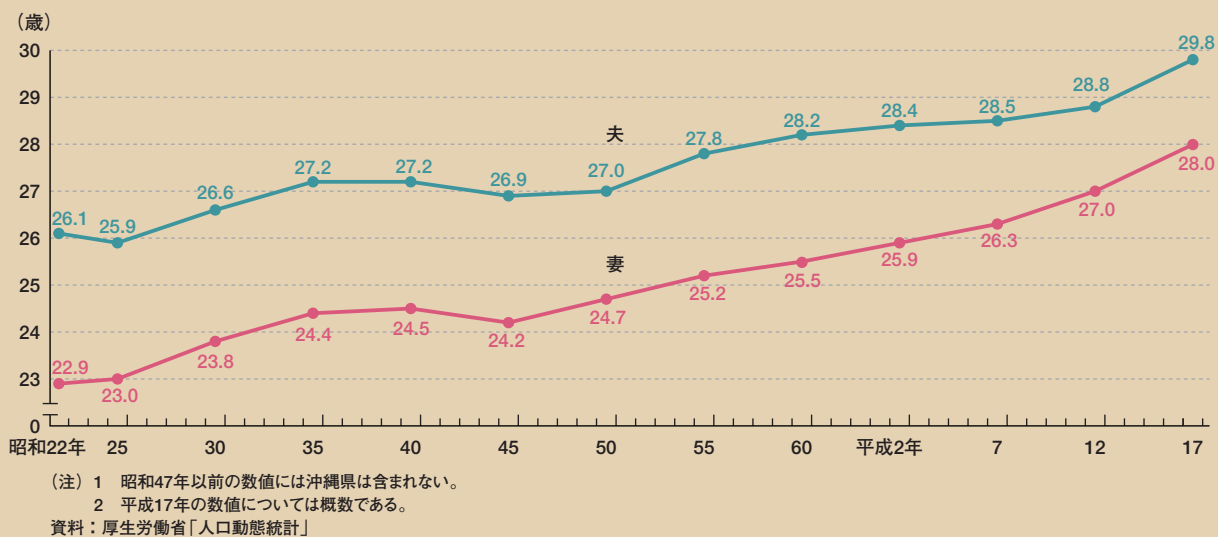
(平成17年の数値については概数である。)

3. 死亡

平成17年における青少年(0～29歳)の死因別死亡率を年齢階級別にみると(第1-1-1表)、0歳では「先天奇形、変形及び染色体異常」が最も高く、1～4歳、5～9歳、10～14歳、15～19歳では「不慮の事故」が最も高く、20～24歳及び25～29歳ではともに「自殺」が最も高くなっている。

(注) 合計特殊出生率：その年次の15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。しかし、現在では実際に一人の女子が一生の間に生む子どもの数とは異なる。

第1-1-3図 平均初婚年齢の推移



第1-1-1表 特定死因別にみた年齢階級別死亡率(人口10万対)の年次比較

区 分	死亡率 総数	不慮の 事故	自 殺	悪 性 新生物	心疾患 (高血圧性を除く)	脳血管 疾 患	肺 炎	先天奇形、 変形及び 染色体異常
全年齢								
平成16年	815.2	30.3	24.0	253.9	126.5	102.3	75.7	2.0
17年	858.9	31.5	24.2	258.2	137.1	105.2	84.9	1.8
0 ¹⁾ 歳								
平成16年	281.1	13.4	—	1.8	12.4	1.2	4.5	106.7
17年	278.6	16.4	—	2.0	12.9	0.9	4.5	96.4
1歳～4歳								
平成16年	25.3	6.1	—	2.4	1.5	0.1	1.6	4.3
17年	25.4	5.2	—	2.2	1.3	0.1	1.5	4.1
5歳～9歳								
平成16年	10.3	3.5	—	1.8	0.4	0.2	0.4	0.4
17年	11.2	3.9	0.0	2.1	0.6	0.2	0.3	0.8
10歳～14歳								
平成16年	9.8	2.5	0.8	2.0	0.7	0.3	0.3	0.5
17年	9.9	2.5	0.7	1.8	0.7	0.2	0.4	0.4
15歳～19歳								
平成16年	28.8	10.6	7.5	3.2	1.6	0.3	0.4	0.6
17年	27.7	9.5	7.9	2.6	1.6	0.3	0.4	0.6
20歳～24歳								
平成16年	43.2	11.7	17.5	3.3	2.7	0.7	0.6	0.5
17年	45.9	11.7	18.6	3.9	2.7	0.7	0.5	0.5
25歳～29歳								
平成16年	48.6	9.3	20.0	5.7	3.6	1.1	0.5	0.5
17年	50.5	9.4	21.6	5.1	3.7	1.3	0.7	0.4

(注) 1 平成17年の数値は概数である。
2 0歳は出生10万対の死亡率である。
「—」は計数のない場合、「0.0」は比率が微小(0.05未満)の場合を表す。
資料：厚生労働省「人口動態統計」